

## 高学年総合

# 「母子について知ろう・伝えよう！」

高学年の総合的な学習では、6年生は修学旅行に向けて平和学習を中心に学習します。5年生は自然学校に向けてプログラムの計画やしおり作成などに取り組みます。それぞれのテーマで進めますが、時には一緒に考えたり協力したり、アドバイスしたりしながら進めることもあります。そして修学旅行や自然学校が終わり、まとめや発表が終わってからは共通のテーマで高学年として取り組んでいます。

令和7年度は「母子神楽を知ろう!伝えよう!」というテーマで、母子神楽について学習していききました。

### 「平和について知ろう・考えよう」・・・6年生

6年生は、広島への修学旅行に向けて、戦争や平和について考えていきました。平和ってどういうこと?なぜ戦争をするの?今も世界のどこかで戦争をしているところがあるのか?など子どもから出てきた疑問から「平和について知ろう・考えよう」をテーマに戦争や平和について、新聞、インターネット、教科書、本などを使って調べていきました。

日本がどうして戦争への道を進んでしまったのか、またその戦争によって、自分たちが当たり前と思っている普段の生活が全てなくなってしまうことのおかしさに気づきました。そしてもっと詳しく知りたい・考えたいという思いをもって、修学旅行での被爆体験者の方のお話や、当時の母子小学校の様子について校長先生からのお話を聴き、平和新聞にまとめました。学習の最後に、全校生に「平和について学ぶ」として発表しました。

### 被爆体験者の方のお話

6年生は修学旅行の平和講習で、被爆体験者の方から当時の様子や被爆されてからの苦しみや、今だから言えること、みんなに伝えたいことなどとても貴重なお話を聴きました。被爆されたことで周りから差別され、またその差別は今もあるということ、今も当時のことは痛みも含めて忘れることはできないという内容が心に残り、今まで以上に平和の大切さを伝えていかなければという思いが強くなりました。

### 戦時中の母子小学校の様子について

校長先生から戦時中の母子小学校の様子を、当時の学校日誌を見ながら聴きました。当時は、学校の運動場で野菜を栽培していたこと、午前は勉強で午後は畑作業や訓練をしていたということ、また、学校の先生が戦い方や相手を傷つける方法などを教えていたということなど、今では信じられないような様子だったということが分かりました。この母子地域でも戦争の影響を受けていたことを知り、戦争は身近なことであり、平和について改めて考える機会となりました。



## 「トライ＆エンジョイ～自然・仲間・自分～」・・・5年生

母子小学校は、小野小学校、志手原小学校の児童と合同で自然学校を行います。(令和8年度からは高平小学校も合同となり、4校での実施となります。)事前に3校の児童による交流会を行います。交流では生活班ごとに自己紹介をして、それぞれの役割を決めます。時間があれば、スタンプの内容についても話し合います。



そしていよいよ自然学校へ出発。竹野浜での活動では、海釣り・浜遊び・ウミホタルの観察・スノーケル体験・磯観察など海を思う存分楽しむ活動をしました。また円山川公苑でのカヌー・カヤック体験、奥猪名健康の里での野外炊事やキャンプファイヤーなど学校では体験できない活動をして、小野小学校や志手原小学校の友だち、17人全員で自然学校を作り上げ、絆を深めました。



## 「母子神楽を知ろう！伝えよう！」

今まで神楽は当たり前のことで、どのようにして始まったのか、なぜしているのかさえよく知らなかった子どもたち。高学年になり、自分たちが神楽を中心になってしていくことでその疑問について明らかにしたいという思いを持って、母子神楽について調べ、みんなに伝えていこうということになりました。そこで、神楽の先生にインタビューしました。



地域の神楽はいつ、どのようにして始まったのか、神楽の舞に込められた意味やどうして子ども神楽が始まったのかということについて、また子ども神楽に対する思いについても知りました。その中で30年～40年ほど前、母子神楽の担い手が少なくなってきた、十分に演じることができなくなっていました。三田市はアメリカやオーストラリアとの文化交流を進めていて、母子でも何かできないかと依頼があり、子どもたちに神楽を伝えることを通して地域も盛り上げていこうということになり、子ども神楽が始まったということ。そして実際に文化交流でアメリカに行き、子ども神楽を舞ったこともあること。そして子どもたちのために地域で本物の獅子頭を購入し、獅子頭を安全に運ぶための箱も作ったということなどの話を詳しく聴き、地域の方の子ども神楽に対する熱い思いを知ることができました。



また、地域の方から子ども神楽に対する思いについては、「やらされているんじゃなくて、神楽はおもしろいな、楽しいな。と思って舞ってほしい。そうすれば中学生になってもまたやりたいと思ってくれるかもしれないから」「神楽を通して学んだことをこれからの生活に活かしてほしい。」と聴きました。

今回の学習で、子ども神楽に対する地域の方や保護者の思いが分かり、これから自分たちが子ども神楽を引き継いでいこうという気持ちが高まりました。

